

【目次】

1. アーカイブ No.32

連載「日本労働会館物語」第 29 回

＜社会主義協会その 2＞

2. 08/06(水)～08(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン伝承塾「枝垂桜④」6 名

3. 08/18(月) 団体見学・三菱ケミカル労働組合・東京支部 4 名

4. 08/27(水) 出張講演・UA ゼンセン製造部門・全東レ労働組合連合会 21 名

5. 08/28(木)～29(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・関東エリア三役トップセミナー 45 名

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.32

連載「日本労働会館物語」第 29 回 2011.07.25 発行の第 34 号に掲載

＜社会主義協会その 2＞

明治 33(1900)年 1 月 28 日、社会主義研究会は惟一館(後の日本労働会館、現友愛会館)の第 11 回例会で「社会主義協会」に改称し、会長に安部磯雄を選出します。

社会主義協会規則は第 2 条「目的」で「社会主義の原理を討究しこれを我邦に応用するの可否を考査するを目的とする」とし、第 4 条「会員」で「一定の職業を有し社会主義を賛同する者は会員たるを得」と規定しています。第 5 条「事業」では「毎月一回例会を開き社会主義及び社会問題を研究す又時々演説及討論の公開を開くことをあるべし」と定めました。

こうして社会主義協会は単なる研究会から社会主義の活動団体へと脱皮し、「社会主義者にあらざる者は実際に於て退会」(安部磯雄)しています。退会したメンバーは岸本能武太、神田佐一郎、横山源之助ら 6 名とされています。なお、例会会場が惟一館から片山潜のキングスレー館に移されました(『社会主義の誕生—社会民主党の 100 年』より)。

社会主義協会は11名のささやかなスタートでしたが、その後、新規加入者が相次ぎます。後に社会民主党を結成する西川光二郎と木下尚江は、第12回と第13回例会で加入しています。

西川光二郎は明治9(1876)年生まれのカリスマで社会運動家。札幌農学校で新渡戸稲造や内村鑑三の影響を受け社会主義に傾倒。片山潜に協力し、雑誌「労働世界」を発刊。明治34(1901)年の社会民主党結成に参加します。

木下尚江は明治2(1869)年生まれのカリスマで作家、弁護士、社会運動家。毎日新聞(キリスト教徒の島田三郎が社長。現在の毎日新聞とは異なる)で廃娼運動、足尾銅毒問題、普通選挙期成運動などに取り組んでいます。彼も社会民主党結成6人衆の一人となります。

社会主義協会は例会を中心に活動に取り組み、1901年3月の第17回例会まで1年1カ月で6回の例会を開いています。しかし第15回例会の後、半年以上の間、開催されず、活動は沈滞します。理由として①村井知至と平井金三が万国ユニテリアン大会に出席のため渡米したこと、②会場を唯一館から移し、また日時を土曜日に変更したことによりユニテリアン会員の出席率が低下したこと、などが挙げられています(前掲書)。

そこで第16回例会では会場を唯一館に戻し、日時を日曜日の午後とします。この例会は二つの点で画期的でした。それは①近々神田青年会館で社会主義大演説会を開催すること、②国際社会主義協会(BSI)に代表者を派遣すること、を決定したことです。

2. 08/06(水)~08(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン伝承塾「枝垂桜④」6名

「歴史は未来の鏡である」、「過去は変えられないけれど、未来は変える(創)ることができる」の考え方から、ゼミナール方式で年間を通して塾を実施した。

主な内容は、①日本労働運動の100年余の歴史 ②流通労働運動の歴史 ③民主的労働運動を探る・労組の役割と責任 ④労働組合が政治・選挙に取り組む理由 ⑤次代の流通労働運動が抱える課題とその対処法 ⑥生産性運動三原則の変遷 ⑦コーポレートガバナンス(企業統治) ⑧あるべき労使関係 ⑨実践できるリーダーシップ論 ⑩流通産業の動向と労使の政策課題 ⑪民社党の歴史・百折不撓 ⑪次世代を担う流通労働運動のリーダーに期待すること等、全工程13講義、10演習、9視察を実施した最終回。塾生の熱心な勉強する態度に感謝。少々詰め込みすぎたのですが、お疲れ様でした。

3. 08/18(月) 団体見学と講演・三菱ケミカル労働組合・東京支部 4 名

常設展示「日本労働運動の 100 年余」を講演。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を聴きました。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。その後は、展示室の見学と日本労働遺産の第一号に認定された「日本労働運動発祥之地」石碑とユニテリアン教会・惟一館煉瓦塀跡を見学した。皆さんとっても熱心に受講し見学をしました。

第二講義は労働組合と生産性三原則の変遷についてです。1955 年 5 月 20 日閣議決定(政労使)した①雇用の確保と安定②生産性向上と事前協議③公正分配についての三項目は不変。2005 年と 2020 年にこの三原則を補完、今日的意義を確認。各項目が時代変化とともに、より広義に具体的に変化し、労使関係の基礎となるものであることを学んだ。

4. 08/27(水) 出張講演・UA ゼンセン製造部門・全東レ労働組合連合会 21 名

常設展示「日本労働運動の 100 年余」を解説講演。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を聴く。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。

5. 08/28(木)～29(金) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・関東エリア三役トップセミナー 45 名

常設展示「日本労働運動の 100 年余」と政治を講演。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を聴きました。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性和今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。

第二講義は労働組合と政治についてです。政治活動と選挙活動の違いとその必要性、政治が出来なければ労働組合ではないとする。政治の歴史と共に、今なぜ国民民主党なのかを明確にし、今回の選挙結果について考察した。

-----「人間の尊厳、進歩と発達のために」-----

発行: 友愛労働歴史館

責任者: 藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL 03-3453-5386

Eメール yuairodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

-----惟一館から 131 年、友愛会から 113 年-----